

令和5年度 病虫害防除技術情報 第1号

令和5年4月3日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

イチゴにおけるアザミウマ類の防除について

気温の上昇につれて、イチゴにおけるアザミウマ類の発生量が多く確認されています(図1)。3月中旬に実施した巡回調査では、イチゴにおけるアザミウマ類の発生圃場率、寄生花率は平年よりも高くなっています。本虫は高温乾燥条件で発生が助長されますが、1ヶ月予報(3月23日・福岡管区気象台発表)によると、3月25日以降の気象は気温が高い確率が70%、降水量が少ない確率が30%と予報されています。本虫は、寄生密度が上昇してからでは防除が困難となるため、早期発見に努めて速やかに防除を実施してください。

3月中旬巡回調査におけるイチゴ アザミウマ類の発生状況

発生圃場率：50.0% (平年：21.4%、前年：60.0%)

寄生花率：6.6% (平年：2.5%、前年：12.6%)

1. アザミウマ類の発生推移

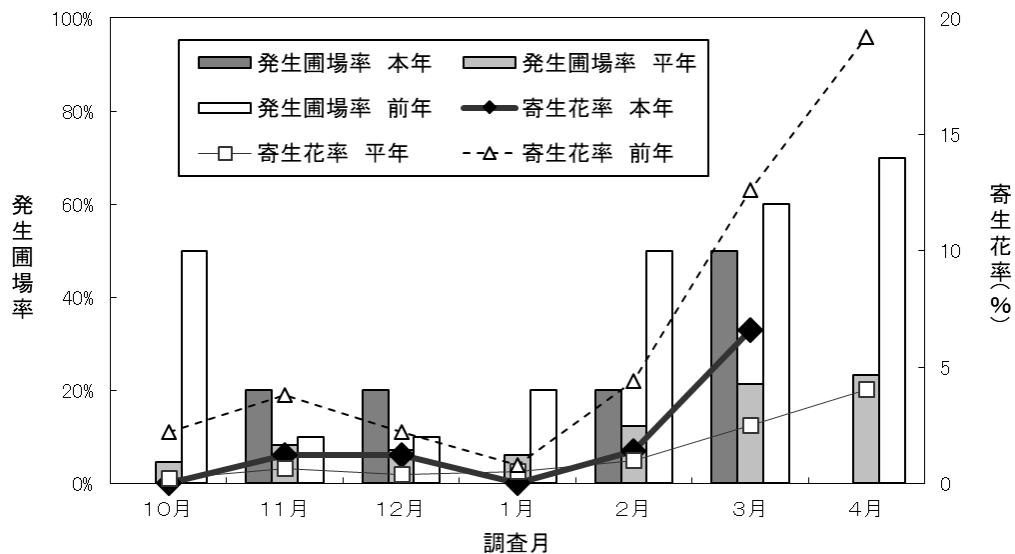


図1 発生予察巡回調査におけるイチゴ アザミウマ類の発生推移

2. 防除上の注意事項

- (1) 圃場内および周辺の雑草は本虫の増殖源となるため、防除を行った後に除草を徹底する。本虫は風で移動するため、特にハウスの風上側の除草を心がける。

- (2) 天敵に長期間影響を及ぼす薬剤があるため、天敵を導入している圃場では薬剤の選定に注意する。また、殺菌剤や展着剤を散布する場合も天敵への影響を考慮した上で散布を行う。
- (3) 天敵に対する薬剤の影響は、日本生物防除協議会ホームページ内にある「天敵等に対する農薬の影響目安」を参照する。

ホームページアドレス <http://www.biocontrol.jp/Tenteki.html>



- (4) 受粉用ミツバチ（マルハナバチ等）に影響を及ぼす薬剤があるため、薬剤の選定には注意する。
- (5) 使用薬剤は大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」の「いちご」「野菜類」の項目を参照し、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。特に同一成分を含む薬剤を連用しないようローテーション散布を心掛ける。

ホームページアドレス

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/boujoshishin.html>

